

瑞医

世界に羽ばたくMEDIPORT
2012.1. VOL.17

contents

極 研究&教育
Current topics in research and education

人 時の人
People in the news

楽 学生生活
Campus life

技 最新医療の紹介
Latest developments on the medical front

和 お知らせ
Information

変革の新年に――

名古屋市立大学医学研究科長・医学部長 藤井 義敬



医学研究科長
藤井 義敬

新しい一年が始まりました。何か新しいことが出来る1年にしたいですね。

学生を含め大学に属するすべての人にとって、「変わらない」ことは「後退」と同義です。

進歩のためには変化が必要です。今現在大変充実してやりがいもあり、忙しくしている人も、現状に甘んじて何も変えずにいると、はっと気づいたときはすでに大勢から遅れているのです。

研究においては今研究室で使っている研究手法が去年と全く同じなら、危険信号です。同じテーマでもそれを深く追求していけば必ず新しい手法が必要になるはずで、共同研究でもよいのです。何か新しいものを取り入れてみましょう。そこからBreakthroughが生まれます。

臨床では患者さんの治療に忙しく、充実して患者さんからも感謝されていると、それでよいのだ、と思いがちです。しかし去年より何か少しでも変化することは可能はずです。慣れてきて去年より余裕ができたのなら、もっと患者さんの心によりそって患者さんのストレスがなくなるような接し方をしてみてもどうでしょう。Bedside Mannerを磨くのです。外科医なら手術の腕を磨くために学会のビデオをみたり武者修行に行くのはどうでしょう。

学生なら少し違った勉強の仕方をしてはどうでしょう。講義のほとんどは1年(1日?)たったら脳裏から消え去っていますが、講義を集中して聞けば、疑問に感じる点がいっぱいあるはずで、それを質問してみましょう。自分で勉強していてわからないことを先生の教室に聞きに行ったことはありますか?せっかく授業料を払っているのですから先生をただで有効活用しましょう。質問に行けば必ず喜んでくれます。私が保証します。

仕事、学業以外の時間を何に使っていますか。勉強、仕事100%であと0というのは問題です。心、身体の健康にも留意し、仕事以外にエネルギーを注げるものを見つけ、居心地の良いところに閉じこもらず、医師、研究者以外の職種の人、医学生以外の学生と交流し、異なった価値観や時間の流れを持っている人と話ができることが大事です。

新入生の皆さん、受験勉強とおさらばして、これからしっかり遊んでやろう、と思っていますか?しっかり遊んでください!でもそれはテレビゲームでなく、全体としての自分の価値が高まるような何か、であって欲しいです。何でもいいから、若いときに一度は自分の限界までやってみてはどうでしょう。限界まで行くと、またその先が展開します。

医学部、医学研究科も少しずつ変わっていくようにしています。教員の評価、あたらしい研究者ポストの新設、学位審査の改革、実習を含めた学生の教育改革、心の健康を含めた、職員学生の健康維持、いろいろあります。このために保護者の方からいただいたご援助を大切にさせていただいております。厚く感謝申し上げます。今後もお支援の程よろしくお願ひ申し上げます。

“瑞医の由来”

「瑞医(ずいい)」という言葉は、瑞穂で育った医師が心の支えとなる名市大、「瑞」にはめでたいことという意味があるので新しい門出の広報誌にと考えました。新しく発足した同窓会と一体となって歩むことを目的に、その名前「瑞友会」と相呼応しています。サブタイトルの「MEDIPORT」は、「Medical」と「Port(港・空港)」をかけた造語。名市大を最新情報を発信する拠点とし、卒業生が社会・世界へ出発し、またいつでも戻ってこられる港であるようにとの願ひをこめています。

連携病院

社会保険 中京病院

当院は、名古屋市南区・熱田神宮の南2Kmに位置し、名古屋市南部・知多半島北部医療圏の中核病院として、救命救急センター、災害拠点病院、地域医療支援病院、地域がん診療連携拠点病院等に指定されています。

病床数663床、全国51社会保険病院の中で最大、屋上にヘリポートを備え、熱傷センター、透析センターを全国に先駆けて設置したのをはじめ、最近では、国の推進する「がん・脳卒中・心筋梗塞・糖尿病・精神疾患」の五疾病、「災害・救急・周産期・小児・僻地」医療の五事業に積極的に取り組み、地域に必要とされる殆ど全ての疾患に対応が可能です。

今後、独立行政法人「地域医療機能推進機構」病院となりますが、公的病院の理想として「地域になくってはならない病院・自立経営の成り立つ病院」を合言葉に、地域の病院・診療所の先生方と連携を取りながら、患者さんに安心して治療に取り組んでいただけるように努力しています。

社会保険中京病院 院長 渋谷 正人



名古屋市総合リハビリテーションセンター附属病院



当直室からは朝焼けに染まる名市大を望めます

当院は、リハビリテーション科、神経内科、整形外科、循環器内科、放射線診断科が常勤で、名市大より医師を派遣していただいております。

脳血管障害、神経変性疾患、高次脳機能障害、リウマチ、脊椎・脊髄、末梢神経疾患、虚血性心疾患、心臓手術後の患者さんについて、各科が連携して検査・診断・治療を行い、専門的な訓練指導を経て、社会復帰に至るまでの一貫したリハビリテーションサービスの提供を行っています。特に、脳外傷やくも膜下出血後の高次脳機能障害のリハビリについては、全国的にも注目されています。

最近のトピックスとしては、家庭で、職場で、学校での「困った」を解決!高次脳機能障害「解体新書」をMCメディカ出版より発刊し、好評発売中です。パラメディカルの方にも是非読んでいただきたい一冊です。

名古屋市総合リハビリテーションセンター附属病院 院長 河合 憲一



教育

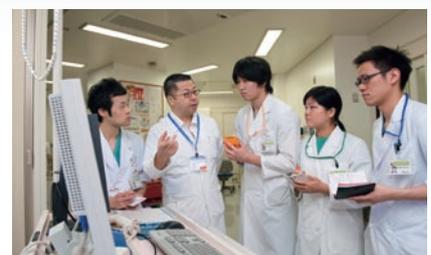
M5 臨床実習は医師への第一歩

5年生になると病院における臨床実習(BSL: bed side learning)が始まります。1年生から4年生で基本的な知識を身に付けた後、実際に患者さんと接することになります。まさに、医師(社会人)への第一歩を踏み出します。医学部の教育プログラムの中で、BSLは重要なもののひとつです。実際の患者さんからは、実に多くのことを学びます。知識の整理や習得のみならず、患者さんと人間対人間で接することにより、心も成長する良い機会です。優れた知識と技術だけでは、良い医師とは言えません。優しさや愛を持って治療にあたることは、大変重要です。医療の高度化により医療事故が起こりやすい背景があり、さらには医療訴訟が増加している時代だからこそ、患者さんとの関係を大切にしたいものです。教員も学生も、BSLは重要な教育プログラムと認識し、日々真剣に取り組んでいます。これからも名市大医学部からは、素晴らしい知識・技術と優さを兼ね備えた医師が生まれていくことでしょう。

文責 BSL小委員会 祖父江 和哉

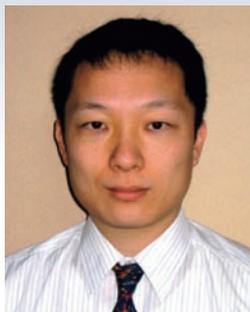


あこがれていた病院での実習がはじまりました



毎日が貴重な経験の連続です

研究者紹介



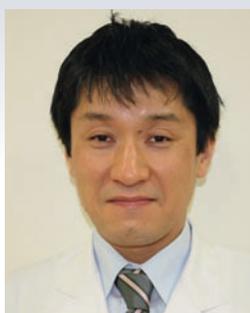
Tsutomu
Yasukawa

安川 力(やすかわ つとむ) 視覚科学(准教授)

専門:視覚科学、細胞生物学、眼薬理

加齢黄斑変性は、国内で70万人が罹患し、予備軍が50歳以上で実に7人に1人と緑内障、糖尿病網膜症と並んで成人失明に関わる重大な疾患です。眼は光を見る宿命にあり、光障害により蓄積する加齢変化が病態の背景にあります。我々は、これまでに加齢黄斑変性の家兎モデルおよび網膜色素上皮細胞の生理機能を解析するために有用な3次元球体培養システムを開発しました。これらを使って、加齢黄斑変性その他の網膜疾患の病態解明を進めています。また、眼球は薬理動態の特殊性のため、網膜疾患への有効な薬物療法として頻回の眼内注射を余儀なくされている現状打開のためにドラッグデリバリーシステムの開発を目指しています。

近年の論文:Recent Pat Drug Deliv Formul 5:1-10 (2011), Br J Ophthalmol 94:600-605 (2010), Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol 247:929-937 (2009), Expert Rev Ophthalmol 4:107-112 (2009), Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol 245:1475-1485 (2007),



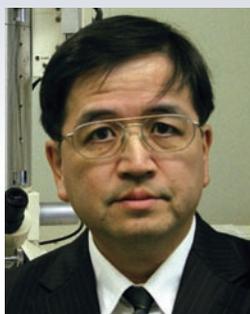
Chikao
Sugie

杉江 愛生(すぎえ ちかお) 放射線医学(講師)

専門:放射線治療学

近年、放射線治療学は最新鋭治療機器の開発・普及により急速に進歩しており、強度変調放射線治療(IMRT)や定位放射線治療(SRT)といった高度な技術を用いた照射方法が容易になり、体内の放射線の分布を自在に操れるようになってきています。それとともに、新たな種々の放射線治療法が考案され臨床応用されていますが、急速に進歩した領域であるために基礎的検討・臨床成績ともにまだまだ研究・検討が必要なことがたくさんあります。最近強度変調放射線治療(IMRT)装置の中でも特に優れた装置であるトモセラピーを用いた、全脳全脊髄照射(CSI)をはじめとした様々な照射法につき、技術的内容や臨床成績などの研究・検討を重ねております。

近年の論文:Technol Cancer Res Treat. 10(2):187-95 (2011), Int J Radiat Oncol Biol Phys in press (2011), Int J Radiat Oncol Biol Phys. 80(3):893-9 (2011), J Radiat Res in press (2011), J Thorac Oncol. 3(1):75-81 (2008)



Eisuke
Sakuma

佐久間 英輔(さくま えいすけ) 機能解剖学(講師)

専門:運動器の類型形態学、神経内分泌学

機能解剖学では学部教育として講義及び人体解剖学実習を永らく担当しております。人体解剖学実習は、医学部設置基準の厳格な規定と献体者の尊いご意志の存在をもとに成り立っており、医学生に人体構造を教育すると同時に生命の尊厳について理解を深めさせ、献体者のご意思、ご遺族の心情にまで思いを巡らせ、「良い医師になるには何が必要か」を教育できる機会だと考えております。研究については大きく分けて肉眼解剖学を含む形態学と組織化学的手法を用いた神経内分泌学の2本建てで行っておりますが、肉眼解剖学の研究においては本学開設以来、初めての論文を発表し、その後3編に至っており、さらなる研究を進めているところであります。

近年の論文:J Orthop Sci 13: 233-239 (2008), Tissue Cell 40: 157-166 (2008), Anat Rec 290: 1388-1398 (2007), Anat Sci Int 82: 237-241 (2007), Folia Morphol (Warsz) 64: 109-114 (2005), Anat Sci Int 79: 235-238 (2004)



Sachiyo
Misumi

三角 吉代(みすみ さちよ) 脳神経生理学(助教)

専門:脳神経生理

障害された脳機能を再建させるための神経細胞移植の研究および生理機能の解明に取り組んでいます。細胞移植では、ES/iPS細胞の幹細胞がドナー細胞として注目されていますが、如何に目的細胞へ分化させるか、腫瘍化をどう防ぐかなどの問題があります。これらの解明を目指し、発生時の低酸素条件や細胞周期の制御に注目して幹細胞から神経系細胞(ニューロン、オリゴデンドロサイト)への効率的な分化誘導機構について検討しています。脳室周囲白質軟化症(PVL)モデル動物を用いて運動麻痺および認知機能の改善へとつなげていきたいと考えています。

近年の論文:J. Neurosci. Res. 89:457-465 (2011), Eur J Neurosci. 28(6):1049-59 (2008), J Neurosci. Res. 86(11):2353-2362 (2008)

OB訪問

—活躍する市大人—

岩田 充永 先生(平成10年卒) 名古屋掖済会病院救命救急センター 副救命救急センター長

私は卒業後半年ほど麻酔科にて研修させていただいた後、内科・老年医学の勉強をさせて頂き、寺澤秀一先生(福井大学教授)にあこがれてER型救急医の道を志しました。今の施設で勤務を始めた当初、上司は外科兼務の部長1人でしたが、仲間にも恵まれ現在は10人の後輩と一緒に働いています(女性救急医が多いのが特徴で、写真のように男は自分一人という勤務環境になることもあります)。

子どもも大人も、外傷も急病も、「一刻を争う重症症例の治療」から「一見軽症に見える症例の中から隠れた重症を見逃さず、重症化する前に治療する」ことまで、まさに“心配呈し”から“心肺停止”まで、様々な局面で患者さんとかかわることができるのは医師として本当に楽しい仕事であると感じています。

卒業以来すっかりご無沙汰しておりますが、母校が救命救急センターとなり、同窓の先生方と協力して名古屋市・愛知県の救急のために働くことができることは本当に嬉しいことです。学生の皆さん、一つの専門分野を追究するスペシャリストの道も、もちろん尊い素晴らしいものですが、幅広く社会のニーズに応えるジェネラリストの道も楽しく充実した医師人生ですよ!!名古屋市立大学から日本の救急医学を支える救急医の仲間が一人でも多く育つことを心から願っています。



女性が多数活躍している職場です!

略 歴

平成10年名古屋市立大学卒業
麻酔・内科・老年科学を研修し、名古屋掖済会病院救命救急センターに勤務
2008年より同センター副救命救急センター長

西医体 100m平泳ぎ、200m個人メドレー優勝! M6 笠原 大輔さん

瑞医創刊号でインタビューした時はM1だった笠原さんが、最高学年になった今年、再び西医体で優勝。卒業を控えた彼に再びインタビューしました。

Q.瑞医の創刊号でも登場していただきました。あの時は1年生?最終学年も有終の美を飾られましたね。ご感想は?

1年の時でした。もう5年前ですね。最後に満足する結果を出すことができとても嬉しいです。最終学年ということで最後まで出場するか悩みましたが、出場すると決め一生懸命取り組んでやりきることができてよかったと思っています。

Q.忙しい実習や試験勉強のさなか、水泳はどのくらいのペースで?水泳部で他の部員とも練習?

学外実習が多く、練習時間を確保することが厳しい週末たくさんありましたが、週3回は泳げるよう時間を見つけて練習しました。平日は時間が合わないことも多かったですが、土日には部員と共に泳ぎ、チームとして一緒に試合に出ました。

Q.水泳歴は?

5歳から水泳を初め、小学校2年から選手として、週7回以上の練習をずっと続けてきました。小学校4年から毎年全国大会に出場し、中学校では3位と4位、高校では5位等の結果を残しました。

Q.ありきたりですが、間もなく卒業ということで、後輩に文武両道のアドバイスを!

学生である今しかできないことはたくさんあると思います。部活、留学、バイトなど様々なことに挑戦し、多くのことを経験、吸収するべきだと思います。もちろん大学生である以上勉強も手を抜かず、大学生生活を謳歌してください。

Q.今後の抱負や進路について教えてください。

スポーツ整形にとっても興味があるため、整形外科に進もうと思っています。学生ではなく、一医師として、今まで経験したことを活かし、精一杯学び、活躍していきたいと思っています。



左端が笠原君



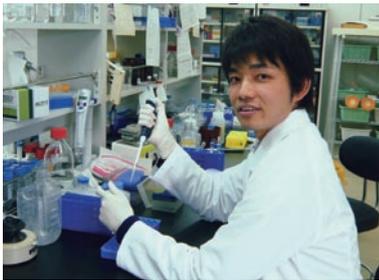
メダルが輝いています!

学部学生生活

M4永井 秀人さん—基礎自主研修の優秀者として学会発表に参加しました!

医学部では基礎自主研修発表会で優れた研究発表を行なったM3学生を表彰し、その成果を学会等で発表する際の費用を支給しています。9月にJapanese Medaka Zebrafish Meetingにおいて発表した永井君に報告してもらいました。

私は3年次の基礎自主研修にて、成体脳内における新生ニューロンの移動メカニズムを解明することを目的として、モデル動物の1つであるゼブラフィッシュ成魚を用いた研究を行いました。



そして2011年9月8・9日に静岡県三島市で行われた17th Japanese Medaka Zebrafish Meeting(小型魚類研究会)にて、その研究成果を口頭発表(英語)する機会を頂きました。

発表者の中には学部生も見受けられ、多数の大学・研究機関による様々な研究が発表されました。医学的応用が期待されるものも多く、非常に興味深いものでした。

全体を通して感じたのは、学生も含めみなさん英語に長け、質疑応答では英語による活発な討論がなされ大きな刺激を受けました。外部に発信していける力と英語能力が必須、と強く感じられた事は今回参加して得られた収穫の1つでした。

昨夏・今夏と1カ月ずつ、ボストンへ短期留学に赴きましたが、これは研究活動の経験を積むとともに英語能力の向上も大きな目的の一つとしていました。今回の口頭発表はそれまでに培ってきた英語力を試す機会としても有意義なものであったと思っています。

基礎自主研修を通し、実際の研究に日々従事する期間を経験できること、研究の最先端を知る事ができること、そして今回のような貴重な経験を得る事も可能である事を考えると、基礎自主研修は将来の活動範囲を広げる大きなチャンスの1つではないかと感じています。

最後になりましたが今回の参加にあたり多大なお力添えを頂いた多くの先生方と、ご指導頂きました再生医学・澤本先生、岸本先生に深謝申し上げます。本当にありがとうございました。

M4 永井 秀人



小型魚類研究会 会場前で

Kawasumi X'mas!

12月22日—クリスマスを前に、医学研究棟のロビーが華やかなクリスマスのデコレーションで飾られました。教員・学生有志によるクリスマス会の始まりです! 企画したM5 米津 大貴さんに聞きました。

瑞友会員の皆様、新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、今回は昨年末に行われました『川澄クリスマス2011』についてご報告させていただきます。このイベントは『川澄キャンパスをもっと明るく楽しく!』というコンセプトのもとに医学部長の藤井義敬教授が発案され、それに賛同した私達学生有志が主体となって企画を行いました。

当日は、会場となった医学研究棟1階ロビー全体にクリスマスの飾りつけを施した他、クリスマスツリー風シャンパンタワーや巨大ブッシュ・ド・ノエルなどを用意しました。さらに、ステージでは学生有志の団体の他、病院長の山田和雄教授や公衆衛生学教室の鈴木貞夫教授にも出演いただき、それぞれ素晴らしい演奏・歌声を披露していただきました。

あっという間の2時間でしたが、来場者の皆様には川澄キャンパスにおいてコンセプトであった『楽しい』を少しでも感じていただけたのではないかと考えています。そして今後もこのようなイベントが増えることで、楽しい川澄キャンパスを作るだけでなく、学生と教職員間の交流をより深めるきっかけとなればと思います。

(クリスマス会実行委員代表 M5 米津 大貴)



写真中央：山田病院長と鈴木教授によるライブ。美声が響き渡りました。

写真下：サンタ柄ネクタイでご登場の藤井医学部長。

名市大病院のチーム医療 第1回 褥瘡対策チーム

名市大病院の褥瘡対策チームは、褥瘡の治療や予防ケアの質を高めるため、平成14年8月に結成されました。結成時を振り返れば、医療事故防止等検討委員会(医療安全管理室)がスタートしてからほどなく、院内での横断的ミーティングやセンター化などが検討される中で、最も早くから、横断的医療活動をすすめてきたチームです。当初は課題が大きく、診療科や病棟に対して、チームからコメントや改善をお願いすること自体にも抵抗が大きく、褥瘡対策＝看護師の仕事という認識も強く、診療科ごと、病棟ごとにも対応がバラバラであった事実もありました。さらには、これらの対応でも、褥瘡の発生率は決して高くはないということもあって、なぜこのようなチーム活動が必要か、理解してもらうため、様々な努力を重ねてきました。今では、病院内でのチーム活動は、褥瘡対策に限らず、必須であり、重要であり、また文化になったと思います。この結果は、数限りない、チーム活動の輪が広がったのではないかと思います。その最初の立ち上げを皮膚科医が中心にさせていただいたことが、何よりも大きな喜びと思っています。

さて、現在のメンバーは皮膚科医(2名)、消化器・一般外科医(1名)、看護師(皮膚・排泄ケア認定看護師)(4名)、薬剤師(2名)、管理栄養士(1名)、理学療法士(1名)、事務職員からなり、院内を横断的に活動しています。皮膚・排泄ケア認定看護師の資格についても、本院から研修にでることで、全国で1598名(2011年12月)、愛知県内で68名のところ、3名が資格認定を受けています。愛知県内の病院では最大数で、大学病院ではトップです。本院の医療の底力となるもので、「戦国地帯の愛知県をトップで走る名市大病院(ダイヤモンド2011年10月号)」の一助となっているでしょう。

主な活動として、毎週火曜日に褥瘡患者の予防治療計画に関する検討会と褥瘡回診を実施しています。また、褥瘡対策マニュアルの整備と推進、褥瘡発生率や診療計画立案件数の報告、褥瘡対策セミナー(スキルアップセミナー)の開催(3回/年)、褥瘡対策Newsの発行などにも力を入れています。これらの活動の結果、2007年には2%台だった褥瘡発生率が2008年8月以降は1%台に低減し、重度の褥瘡症数も減少するなど、成果が得られています。今後もチームワークと高いモチベーションで、質の高い褥瘡ケアや予防ケアを提供していきたいと考えています。今後、1%以下を目指すことを来年度以降の目標にして、チーム力を高め、頑張っていきたいと思っています。いよいよ、手術中の褥瘡対策にも、大きな考え方を出していきたいと思っています。

褥瘡対策 Newsでは常に最新の情報を発信しています。



薬剤師

褥瘡治療の保存的方法として、創傷被覆剤(ドレッシング剤)と薬剤の使用があります。褥瘡部位の浸出液の量などによる軟膏やクリーム等の基材の選択に薬剤師は留意しています。褥瘡は栄養状態が悪いと治りにくいです。NSTチームとも連携して、創を見るだけでなく、患者さん全体を見て、適切な処方の提案をしていきたいと思っています。

管理栄養士

褥瘡がある患者さんは、食事を十分食べることができず、著しい体重減少がある場合が多いです。私たち管理栄養士は、食事内容の変更や経腸栄養剤などの提案をすることで、栄養状態の維持・改善に向けて取り組んでいます。患者さんが、少しでも多く食べることができるよう支援し、治療の一助となるよう、褥瘡チームの一員として、また、チーム医療の一環として積極的に取り組んでいきたいと思っています。

医事課職員

多部門のメンバーで構成される褥瘡対策チームの事務局を任されています。業務連絡や会議室の準備、会議の資料作成や、褥瘡予防対策に対して診療報酬上で評価の得られる加算の算定について、保険担当者・チーム間連携補助などが主な業務です。チームの一員ですが患者さんと直接接することはありません。しかし、チーム医療として、よりよい褥瘡予防・ケアが行えるように、チームが円滑に活動できるように事務方として務めてまいりたいと思います。

理学療法士

褥瘡の発生要因となる関節の変形・拘縮、姿勢、廃用症候群などの因子に対するアプローチは、リハビリテーション部門として通常行われています。褥瘡対策チームに関わることで、リハビリテーションが褥瘡の治療経過にどのように影響を与えているかを評価し、その内容にフィードバックすることが可能となります。また、褥瘡対策として好発部位に持続的な圧が加わらないような姿勢指導を行うことで、褥瘡の発生・増悪予防に取り組むたいと思っています。

文責 名古屋市立大学大学院医学研究科 加齢・環境皮膚科学 教授
名古屋市立大学病院総合研修センター長 病院長補佐 森田明理

地域貢献・地域活動

環境ボランティア 「レッツ!エコ友」

グリーンクリーンクラブは、地域に愛される病院をめざして、平成22年6月から活動を開始しました。そのきっかけは、地域の方々から「病院が敷地内禁煙をしているために患者や職員が周囲の道路で喫煙し吸殻をポイ捨てしている。嚴重に取り締まるように」という苦情をたびたび頂いていたことです。そのような事例はほんの一部です。大多数の職員は桜山が大好きで、地域を支えたいと思っており、誇りを持って仕事をしています。その思いを表したいという願いが桜山キャンパス周囲の清掃活動に繋がりました。毎月第3水曜日の17時30分から約1時間の活動です。冬季(10月~2月)は昼休みに活動しています。時々はややしいおばさん集団に見られたりしていました。平成22年10月に病院の提案キャンペーンに申し込み、見事1位となりました。頂いた副賞で揃いのエプロンを作りました。緑色で、前身ごろに「名市大病院 エコ友」後ろ身ごろに「環境ボランティア」と染め抜き、あやしい集団から元気でさわやかな集団になりました。

平成23年度から看護部の橘香会にエコ友の事務局が移りました。病院全体へ活動の輪が広がるように毎月お知らせのチラシを病院内に配布しております。現在、活動を昼間に行

病院周囲の道路をみんなで揃いのエプロンつけて和気あいあいと清掃中です。たばこの吸殻などがこの日も多く捨てられていました。



っており参加したい気持ちがあってもなかなかボランティアの時間を確保するのが難しいのが現状でした。そこで仕事の前に参加しやすいように12月から7時55分~8時15分までの活動としました。病院の周りが少しでもきれいになると達成感を感じるこの頃です。まだまだ吸殻などが多く継続的な活動が必要だと思います。みなさん、ボランティアというと大変と思わず「チョコット・ボランティア」の輪を広げませんか？

朝の始業前の心と体のウォーミングアップに、ぜひみなさん御一緒に「レッツ!エコ友」

看護部 平松 伴乃



美味しいお店紹介 —第11回 ほていやさん

この度はO先生お勧めのお店「ほていや」さんにお邪魔しました。やや傾斜した玄関をくぐると、古道具や絵画が一杯の店内。まるで田舎のおじいちゃんおばあちゃんの家遊びに来ているようななどこか懐かしい雰囲気です。



O先生お勧めのざるそば定食



奥には座敷席もあり、グループで来ても良さそうです。

この日注文したのは、きしめん定食。手打ちの麺は柔らかめで、すすり度にかつおだしの素朴な味わいが口一杯に広がります。付け合わせの青菜はしゃきしゃきとした歯ごたえで、柔らかめの麺との相性は抜群。また、定食にはおかずが1品付いており、この日は味噌おでん。だしの味がしみた大根やはんぺんに甘めの味噌だれがそえてあり、こちらもたまらないおいしさでした。おかずは日替わりなので、毎日来ても楽しめそうです。(ちなみにO先生はいつもざるそば定食とのこと)

私たちが食べている間にも、お客さんがぞくぞくと訪れ、お店の方とあいさつや世間話をされているお客さんもおり、ご近所の方に愛されているお店ということが伝わりました。

最後に素敵なお店を教えてくださいましたO先生に感謝です。

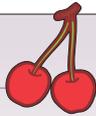
(事務職員 女性)



骨董や絵画が飾られた店内



～さくらんぼ保育所訪問～



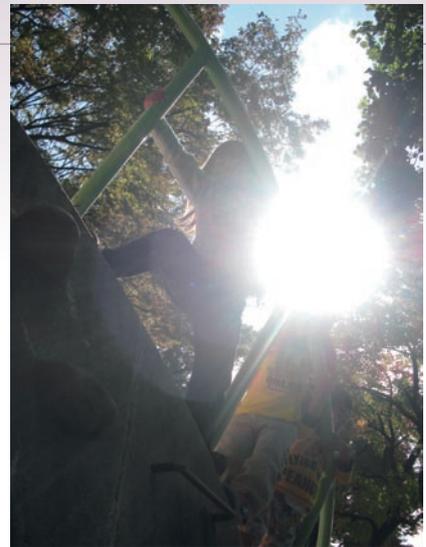
瑞医Vol.16号で男女共同参画の取り組みとして紹介された「さくらんぼ保育所」の竹上園長先生からお話を伺いました。

さくらんぼ保育所は、昨年度から開設された学内保育所です。現在、社会福祉法人緑の丘福祉会が委託を受けて運営しています。昨年3月末、旧病院内保育所の跡地に建てられた新園舎に移り、今は50名を超える子ども達が生活しています。テラスからすぐに出られる園庭や、すぐ隣の芝生広場は子ども達の恰好の遊び場です。日当たり抜群の望ましい環境のもと、思う存分動き回ったり、四季折々の草や木の実、虫にも触れ、自然を身近に感じながら毎日を過ごしています。寒い日でも、子ども達は元気に大好きな散歩に出掛けています。博物館や山の畑キャンパスにも足を延ばしています。

昨年度は施設設備の関係上、完全自園給食ができませんでしたが、今年度からは子ども達に素材を生かした安心で安全な手作りの給食を提供できるようになりました。今、世間では「食育」が重要視されていますが、さくらんぼ保育所でも「食育」を保育の中に高く位置づけています。その一環として1歳児クラスから2、3歳児クラスまで計画的に行っているクッキング保育や野菜の栽培では、子ども達がとても楽しんで様子が見られており、「食」に対する興味や意欲を高める大切な取り組みとなっています。

現在、さくらんぼ保育所では延長保育、夜間保育の需要が高く、21時までの延長保育と週2回の夜間保育を実施しています。一時保育や病児・病後児保育にも条件付ではありますが対応しています。院内・大学内を対象とした取り組みでは、「遊ぼう会」などの子育て支援を行ったり、今年の2月には、子どもの育ちをテーマに掲げた講演会を予定しており、準備を進めているところです。多くの方々の参加をお待ちしています。

これからも、子ども達が安心して生活を送れるよう保育に努めていく所存です。ご支援・ご協力をどうぞよろしくお願いいたします
文責 園長 竹上 淳子



寒くても外で遊ぶ時は元気いっぱいです！



クッキング保育の様子



いろいろな歌や遊びを楽しんでいます。

平成23年度ご寄附をいただいた方々

「市立大学振興基金(医学振興)」に、ご理解・ご賛同を賜り、誠にありがとうございます。平成23年度も多数の方々からご寄附をいただきました。お寄せいただいた寄附金は、教育・研究の推進に活用させていただきます。

松井 基治 様	小栗 悟 様	加藤 宏司 様
西田 正直 様	杉原 英男 様	富山 実 様
青山 克彦 様	松本 高典 様	加藤 常男 様
川久保 己代子 様	第99回日本泌尿器学会総会 会長 郡 健二郎 様 (順不同)	

広報誌：瑞 医(ずい)
発行：名古屋市立大学大学院医学研究科・医学部
〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1
TEL(052)853-8077 FAX(052)842-0863

URL <http://www.nagoya-cu.ac.jp>

※次号の発行は平成24年5月下旬発行予定です。[年3回 1月・5月・9月]

**我こそは
通信員!**

広報誌「瑞医」へ最新の話題をお届けして下さるサポーター大募集!「今、当講座ではこんな若手が頑張っています!」など広報委員会へ取り上げてほしい話題を教えてください。教職員・学生、身分は問いません。我こそは、という方は、igakujimu@sec.nagoya-cu.ac.jpまたは医学部事務室 広報担当まで